

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284016

研究課題名(和文)18世紀における知識とマナー、秩序：公共知の東西比較

研究課題名(英文) Knowledge, manner and order: A comparative study of public knowledge in the West and East

研究代表者

高橋 博巳 (Takahashi, Hiromi)

金城学院大学・付置研究所・客員研究所員

研究者番号：70109833

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：当プロジェクトは、18世紀の公共知の東西比較を中心に、内外の研究者と共同研究を行ってきた。とくに朝鮮通信使を介しての日朝比較には、韓国の研究者と知見を共有し、当時の文芸共和国的な側面を解明することによって、これまで国ごとに分断されていた文学や思想の研究に新生面を開くことができた。これに比べると、清朝の文人や思想家とのより広範な知的交流の解明はなお道半ばと言わざるを得ず、より一層の深い解明が期待される。

個別には伊東は『心身/身心と環境の哲学』、寺田・逸見らは『百科全書の時空 典拠・生成・時空』、長尾は『複数世界の思想史』において、従来の視点を大きく転換したり深化させて、新生面を開いている。

研究成果の概要(英文)：The project compared the public knowledge of the West and the East in the 18th century and promoted various collaborative researches between Japanese and foreign researchers. Especially on “the republic of letters” in Japan and Korea, it shed light on the common features of literature, culture and thoughts with the help of Korean scholars. The conclusion of the study pointed to the need of further analysis of 18th century China. Individually, Ito, Nagao and Terada & Hemmi have succeeded in deepening or transforming existing views of public knowledge by their publications.

研究分野：思想史

キーワード：思想史 公共圏 啓蒙 文芸共和国

1. 研究開始当初の背景

本研究は名古屋大学総長裁量経費による「東アジア『18世紀学』の拠点形成」プロジェクトに端を発し、2006～2009年度の科研費による「啓蒙と東アジア：相互性のプリズムを通じた18世紀学の構築」、およびその後の「公共知の形成 東西比較による18世紀学の展開」のあとを受けて、日本ならびに国際18世紀学会との連携のもと、一貫して公共知の東西比較を目指してきた。

2. 研究の目的

本研究は19世紀以降に確立された現代的な知の先駆である18世紀の「公共知」の概念を軸に、東西で発展した公共知＝共有される知識の創造、伝播、普及が、それぞれの社会のマナー、秩序にどのような影響を与えていったのかを、各領域の一次資料の緻密な検討によって比較する。それによって19世紀から現代にいたる狭義の「近代」とは異なる知的世界として18世紀を描き出すとともに、東西両地域の19世紀以後の歴史的展開の相違がどのように生まれたかをも思想的に明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

18世紀に豊富に記録された諸文献や画像資料を地域や国によって分断せず、東西にわたって相互に影響を与え合った様相を解明し、文明の流れをたどって、18世紀の豊かさやどのように形成されたかを明らかにする。このような地域を超えた取り組みは、東アジアにあっては朝鮮通信使による日・朝間に、燕行使の交流によって朝鮮と清朝の間で行われた。その種々相は外交記録だけでは明らかにならず、詩文の唱酬といった文人間の交流から読み解いてゆかなければならない。そうすることによって、従来ほとんど見過ごされてきた交流の実態に迫ることが可能となる。

4. 研究成果

こうした広域にわたる研究は、各地域の独自性に十分に通じた各地の研究者によって成されることが望ましいが、本研究では韓国・中国の研究者の協力を得て、鎖国海禁体制にあっては例外的な交流によって、「学芸共和国」とも称すべき文人交流が活発に行われていたことを確認した。成果の一部は2014年度の日本18世紀学会で「18世紀海の道」シンポジウムに韓国から2名、中国から1名の参加者を得て、2016年には同じく「18世紀：持続と切断」のシンポジウムに中国から1名、2017年には本研究会に韓国から3名の研究者を招いて、成果を学会と共有してきた。そのまとめとして、主要メンバーで「風俗・社中・風雅」をテーマとした論集を編集集中であるが、すでに公刊したものに長尾伸一『複数世界の思想史』（名古屋大学出版会、2015年）、逸見龍生ほか『百科全書の時空』（法

政大学出版会、2017年）などがある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計27件）

伊東 貴之

「東アジアの「近世」から中国の「近代」へ 比較史と文化交流史／交渉史の 視点による一考察」、『中世日本の王権と禅・宋学』汲古書院〔東アジア海域叢書15〕、2018、59-90、

高橋 博巳

「18世紀、世界の都市を歩む2」、『知識百科』2017、19-27、

高橋 博巳

「尾張文人と朝鮮通信使」、『国語と国文学』1128、2017、3-15、

鷺見 洋一

「博論異聞 『ラモアの甥』の昔と今」、『流域』90、2017、24-31、

鷺見 洋一

「博論異聞 『ラモアの甥』の昔と今（承前）」、『流域』91、2017、27-32、

伊東 貴之

「我們是如何認識傳統中国的：學術論争与儒教之影」、『社会科学戦線』吉林省社会科学院主辦、262、2017、244-252、

伊東 貴之

「心の軌跡と身体性 朱子學、陽明學、清代思想から考える」、『儒学与時代：復旦大学上海儒学院首届年会論文集』、2017、128-135、

伊東 貴之

「“政治化”的朱子学 呂留良事件的立場」、『呂留良与崇德人文』浙江古籍出版社、2017、16-40、

川島 慶子

「『湯浅文書』に見る湯浅年子の終戦直後」、『化学史研究』、44-1、2017、2-19。査読あり

川島 慶子

"Nobuo Yamada and Toshiko Yuasa: Two Japanese Scientist and the Curie Family," *Historia Scientiarum*, 27-1, 2017, 108-124. 査読あり

川島 慶子

「ノーベルの夢の体現か？ - マリー・キュリーのノーベル賞受賞（シンポジウム「ノーベル賞と産業」）」、『化学史研究』44-3、2017、

22-27(シンポジウム全体：21-48)． 査読あり

川島 慶子

「『火の論文』(1744)に見る、エミリー・デュ・シャトレの科学啓蒙とジェンダー」、『日本18世紀学会年報』32、2017、33-49、査読あり

玉田 敦子

「世界表象の光と闇：エナルゲイアとエネルゲイア概念をめぐって」、STELLA(九州大学フランス語フランス文学研究会)、36、2017、55-75、査読有・オープンアクセス有(<http://hdl.handle.net/2324/1906125>)

寺田 元一

Essai d'interprétation des Éléments de physiologie de Diderot. Lecture intertextuelle et édition critique, Séminaire organisé par Colas Duflo、2017、Paris 10 Nanterre、9-28

川島 慶子

「『湯浅文書』に見る湯浅年子の終戦直後」、『化学史研究』44-1、2017、2-19、

高橋 博巳

「会津 玉堂 幻想」、『太平詩文』70、2016、37-51、

高橋 博巳

「通信使から修信使へ」、『洌上古典研究』53、2016、9-28、

鷺見 洋一

「編集者としてのデイドロ 『百科全書』はいかに編集されたか」、『Editorship』4、日本編集者学会、2016、67-101、

高橋 博巳

「18世紀の茶事」、『金城学院大学論集(人文科学編)』13-1、2016、1-14、

逸見 龍生

「意志論の神学・政治的布置 デイドロ 口執筆項目「政治的権威」におけるパウロ解釈」、『百科全書』・啓蒙研究、3、2015、105-134、

21川島 慶子

「マリー・キュリーとラジウムの発見」、『化学と教育』62-2、2015、68-71、

22高橋 博巳

「金正喜の肖像」、『金城学院大学論集(人文科学編)』12-1、2015、23-37、

23逸見 龍生

「『百科全書』における政治的徳の言語国民の記憶の受容とその再解釈について、

3」、『WASEDA RILAS JOURNAL』2015、255-262、

24高橋 博巳

「文人研究から学芸の共和国へ」、『二松 學舎大学人文論叢』93、2014、1-18、

25伊東 貴之

「『感情記憶』の印痕 歴史叙述の主観と客観性」、『二十一世紀』142、香港中文大学、2014、24-28、

26伊東 貴之

「Li Gong's Standpoint: Towards a Reconsideration of the Yan-Li School」、『Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko』71、2014、1-43、

27川島 慶子

「エミリー・デュ・シャトレの『火の論文』(1744)異本について」、『化学史研究』41-2、2014、26-29、

〔学会発表〕(計23件)

川島 慶子

「マリー・キュリーの挑戦 - ラジウム研究所から世界に羽ばたいた女性達 -」、第8回医療人キャリア支援室 キャリアアップセミナー、於山口大学医学部、2018、招待講演、

玉田 敦子

「世界から作者へ 18世紀フランスの文学における vraisemblance(真実らしさ)」、「啓蒙とフィクション」研究会、2018、名古屋大学

玉田 敦子

「18世紀フランスにおける近代と古代」、中部高等学術研究所「人文学の再構築」研究会「近代と古代」サブセミナー、2018、中部大学、

高橋 博巳

「玉堂はいつ「玉堂」になったか?」、第5回国際歴史文化研究会、2017、

鷺見 洋一

Le Neveu de Rameau hier et aujourd' hui、Journée Le Neveu de Rameau a la Sorbonne、2017、招待講演

鷺見 洋一

Le Neveu de Rameau dans sa descendance internationale、Societe Diderot、2017、招待講演

鷺見 洋一

Societe Diderot A la recherche des sources du grand dictionnaire: une etude genetique de l' Encyclopedie. What is the Enlightenment? New answers to the old

question、2017、招待講演

伊東 貴之

「伝統中国をどう捉えるか？ 伝統中国の国家・社会論の再考のために」、内藤湖南研究会・東アジアの歴史と現代研究会（共催）、2017、

伊東 貴之

“Beyond the Concept of Cartesian Body-Mind Relationship: Reconsidering the Philosophical Terminology of Neo-Confucianism”, Workshop4; ‘Alternative concepts of self, body and mind from contemporary Japanese perspectives (Organizer: Kono Tetsuya, with Tanaka Shogo and Inutsuka Yuu)’, 第17回国際理論心理学会大会、2017、

伊東 貴之

「礼教的滲透・泛化及其展開 以中国为中心的近世東亜的事例」（「礼教」の滲透・汎化とその展開 中国を中心とする近世東アジアの事例から）、浙江大学 歴史系セミナー「SEMINAR: 宇宙・礼教・学術」、2017、

川島 慶子

「『これはあなたのもの』アフタートーク」ロアルド・ホフマン、鶴山仁と共に、新国立劇場小劇場、2017、

玉田 敦子

「マリー・アントワネットとミソジニー」、第1回「革命/内乱とジェンダー」研究会、2017、駒澤大学、

玉田 敦子

「18世紀フランスにおける表象理論の刷新と複数性理論」、第39回日本18世紀学会全国大会シンポジウム「世界の複数性」、2017、立教大学、

逸見 龍生

Temporalite et savoirs, Stephane Lojkine et Adrien Paschoud (dir.), Diderot et le temps, Presses Universitaires de Provence, 2016, 81 - 92.

逸見 龍生

「中川久定氏におけるキリスト教護教論研究の意義とその射程」人文研アカデミー国際ワークショップ、「中川文庫」開設記念『東アジアで18世紀研究者であること』 - Hisayasu Nakagawa, L'Esprit des Lumières en France et au Japon をめぐって』, 2016年11月12日、京都大学人文科学研究所、招待講演

川島 慶子

「湯浅年子 その人生および日本とフラン

スにおける文献について」、文献への興味：科学的文献と科学者の文献連続セミナー、パリ天文台、2015、

堀田 誠三・高橋 博巳

「18世紀海の道」、日本18世紀学会大会、福山市立大学、2014年、

高橋博巳

「琴詩書画の系譜 鈴木修敬・村井琴山・浦上玉堂」、伝統音楽研究会（京都市立芸術大学）、2014

寺田 元一

「Traditional Chinese Medicine and Montpellier Vitalism」、Globalizing Chinese Medicine in the 17th Century, Brown University, Providence, USA, 2014（招待講演）

逸見 龍生

「文人たちの結社」、ルネサンス研究会（学習院女子大学）、2014、招待講演

21 逸見 龍生

「哲学者と人文主義者 フランス18世紀『百科全書』におけるヒストリアの概念」、新しい人文学の地平を求めて ヨーロッパの学知と東アジアの人文学（早稲田大学）2014、

22 伊東 貴之

「清朝と東アジア 清朝の自己正当化の論理と明清交替の衝撃」、東亜区域研究学群講演会（台湾・中央研究院近代史研究所）2014、

23 玉田 敦子

「18世紀フランスにおける文化的マチズモの台頭 『習俗』と『趣味』をめぐって」、『恐怖・嫌悪・欲望とジェンダー』シンポジウム、奈良女子大学言語文化学科、2014、

〔図書〕（計8件）

逸見 龍生編

『百科全書の時空 典拠・生成・転位』、法政大学出版局、2018、406、

伊東 貴之ほか

『治乱のヒストリア 華夷・正統・勢』、法政大学出版局、2017、238+8、

伊東 貴之編

『「心身/身心」と環境の哲学 東アジアの伝統思想を媒介に考える』汲古書院、2016、771+37、

渡辺 浩

『東アジアの王権と思想』増補新装版、東京大学出版会、2016、286+8、

川島 慶子

『マリー・キュリーの挑戦 科学・ジェンダー・戦争』改訂新版、2016、222、

長尾伸一

『複数世界の思想史』名古屋大学出版会、2015、315+46、

伊東 貴之

『中国近世的思想典範』台湾大学出版中心、2015、286、

渡辺 浩

『ルソーと近代：ルソーの回帰・兆民、ジャン・ジャックを裁く：中江兆民がルソーから学んだことと拒否したこと』風行社、2014、331 - 345、

〔その他〕

ホームページ等

長尾伸一

<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/html/staff/nagao.html>

川島慶子

http://www.ne.jp/asahi/kawashima/j_home.html

寺田元一

<http://www.hum.nagoya-cu.ac.jp/~terada/>

伊東貴之

<http://www.nichibun.ac.jp/research/faculty/staff/itoh.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 博巳 (TAKAHASHI, Hiromi)

金城学院大学・付置研究所・客員研究所員
研究者番号：70109833

(2) 研究分担者

安藤 隆穂 (ANDO, Takaho)

中部大学・中部高等技術研究所・教授
研究者番号：00126830

伊東 貴之 (ITO, Takayuki)

国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：20251499

長尾 伸一 (NAGAO, Shinichi)

名古屋大学・経済学研究科・教授
研究者番号：30207980

寺田 元一 (TERADA, Motoichi)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：90188681

鷲見 洋一 (SUMI, Yoichi)

慶應義塾大学・文学部 (三田) ・名誉教授
研究者番号：20051675

逸見 龍生 (HEMMI, Tatsuo)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：60251782

川島 慶子 (KAWASHIMA, Keiko)

名古屋工業大学・工学 (系) 研究科・教授
研究者番号：20262941

玉田 敦子 (TAMADA, Atsuko)

中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：00434580

(4) 研究協力者

渡辺 浩 (WATANABE, Hiroshi)

東京大学・法学部・名誉教授
研究者番号：10009821